

【2019年5月の経済報告】

2019年5月30日

本稿は、マイクロマシン/MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。2019年5月の経済報告をお届けします。

掲載内容

1. 全般動向（内閣府発表 景気動向指数より）
2. 各経済指標
 - ・内閣府公表 月例報告、機械受注統計調査報告 より
 - ・経済産業省公表 鉱工業指数調査より
3. その他の動向

1. 全般動向

■ 景気動向指数（内閣府、2019年3月分（速報）より抜粋）（2019年5月13日発表）

3月のCI（速報値・平成27（2015）年=100）は、先行指数:96.3、一致指数:99.6、遅行指数:104.6となった。

先行指数は、前月と比較して0.8ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。3か月後方移動平均は0.27ポイント下降し、9か月連続の下降となった。7か月後方移動平均は0.46ポイント下降し、10か月連続の下降となった。

一致指数は、前月と比較して0.9ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。3か月後方移動平均は0.50ポイント下降し、5か月連続の下降となった。7か月後方移動平均は0.47ポイント下降し、5か月連続の下降となった。

遅行指数は、前月と比較して0.1ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。3か月後方移動平均は0.17ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。7か月後方移動平均は0.03ポイント下降し、3か月ぶりの下降となった。

詳細は以下の内閣府 HP をご参照下さい。（景気動向指数の概要 pdf へ）

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201903psummary.pdf>

2. 各経済指標

■ 月例報告（内閣府、月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料より） （2019年5月24日公表）

<日本経済の基調判断>

（現状）

- ・景気は、輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している。

（先行き）

- ・先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある

今月のポイント(1)

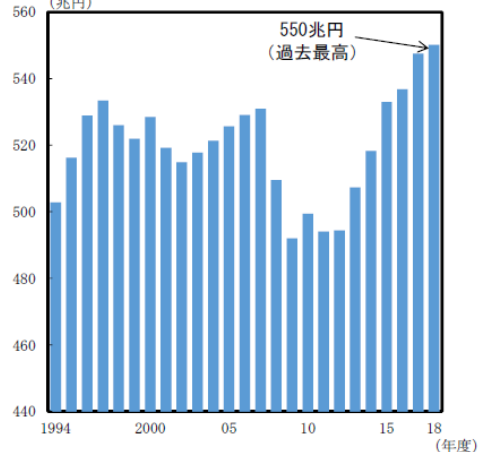
－ 2019年1－3月期GDP(1次速報) －

- 2019年1－3月期の実質成長率は、前期比プラス0.5%、年率に換算するとプラス2.1%と2期連続のプラスとなった。
- 公共投資が5期ぶりにプラスとなる一方で、中国経済の減速等を背景に、輸出が2期ぶりのマイナス、設備投資についても、製造業を中心に先送りの動きがみられることなどから、今期は小幅なマイナスとなった。また、個人消費については、今期はおおむね横ばいとなった。
- 2018年度の名目GDPは550兆円となり、年度ベースでも過去最高を更新した。

GDP成長率の内訳

	2017年度	2018年度	2018年				2019年
			1－3月期	4－6月期	7－9月期	10－12月期	
実質GDP成長率 [年率]	1.9	0.6	▲0.1 [▲0.3]	0.5 [2.2]	▲0.6 [▲2.5]	0.4 [1.6]	0.5 [2.1]
内需(寄与度)	(1.5)	(0.7)	(▲0.1)	(0.6)	(▲0.4)	(0.7)	(0.1)
民需(寄与度)	(1.3)	(0.8)	(▲0.1)	(0.6)	(▲0.4)	(0.6)	(0.1)
個人消費	1.1	0.4	▲0.1	0.6	▲0.3	0.2	▲0.1
設備投資	4.5	3.2	1.2	2.4	▲2.5	2.5	▲0.3
住宅投資	▲0.7	▲4.2	▲2.4	▲2.1	0.8	1.4	1.1
在庫投資(寄与度)	(0.1)	(0.2)	(▲0.2)	(▲0.0)	(0.1)	(0.1)	(0.1)
公需(寄与度)	(0.1)	(▲0.0)	(▲0.0)	(▲0.0)	(▲0.0)	(0.1)	(0.0)
公共投資	0.5	▲3.8	▲1.3	▲0.7	▲1.9	▲1.4	1.5
外需(寄与度)	(0.4)	(▲0.1)	(0.1)	(▲0.1)	(▲0.2)	(▲0.3)	(0.4)
輸出	6.4	1.3	1.0	0.7	▲2.0	1.2	▲2.4
輸入	4.1	2.0	0.7	1.0	▲1.0	3.0	▲4.6
名目GDP成長率 [年率]	2.0	0.5	▲0.2 [▲0.8]	0.3 [1.2]	▲0.6 [▲2.5]	0.5 [1.9]	0.8 [3.3]

名目GDPは年度ベースでも過去最高を更新
(兆円)



(備考) 1. 内閣府「国民経済計算」により作成。
2. 左図は、季節調整済前期比(ただし、○内は寄与度、□内は年率換算値)。

詳細は以下の内閣府 HP をご参照下さい。(月例経済報告資料 pdf へ)

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2019/05kaigi.pdf>

■ 設備投資（令和元年5月22日 内閣府 経済社会総合研究所 公表より抜粋）
2019（平成31）年3月実績： 機械受注統計調査報告

機械受注総額の動向をみると、2019（平成31）年2月前月比5.4%増の後、3月は同4.3%減の2兆2,542億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比3.5%減の9,847億円、官公需は同37.7%減の1,523億円、外需は同9.0%増の1兆734億円、代理店は同7.6%増の1,255億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2019（平成31）年2月前月比1.8%増の後、3月は同3.8%増の8,688億円となった。このうち、製造業は同11.4%減の3,440億円、非製造業（除く船舶・電力）は同13.4%増の5,117億円となった。

対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期・月	2018年度	2018年		2019年		2018年	2019年		
		(平成30年度)	(平成30年)	10-12月	(平成31年)	4-6月	(平成30年)	(平成31年)	2月	3月
		(実績)	7-9月	(実績)	1-3月	(見通し)	12月	1月	(実績)	(実績)
受注総額		1.9	1.7	2.5	-10.4	10.9	-6.1	-7.9	5.4	-4.3
民需		3.7	1.2	-5.7	-0.9	9.7	6.8	0.0	-1.1	-3.5
〃	(除船電)	2.8	1.5	-3.2	-3.2	15.7	-0.3	-5.4	1.8	3.8
製造業		3.8	-1.0	-4.1	-7.7	11.7	-4.4	-1.9	3.5	-11.4
非製造業	(除船電)	2.1	3.4	-1.9	-0.3	18.8	5.6	-8.0	-0.8	13.4
官公需		-1.7	17.9	-6.3	-24.1	48.5	-11.3	2.7	2.2	-37.7
外需		1.0	-0.5	10.4	-12.3	1.1	-18.1	-18.1	19.0	9.0
代理店		2.4	-0.6	4.4	-5.7	3.8	0.3	-1.3	-8.8	7.6

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の内閣府 HP をご参照下さい。

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1903juchu.html>

■ 鉱工業指数調査 (2019年5月20日 経済産業省 公表より抜粋)
【2019年3月分】

鉱工業指数 (生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)、製造工業生産予測指数
～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

- ・製造工業稼働率指数は、100.6で前月比-0.4%の低下であった。
- ・製造工業生産能力指数は、98.7で前月比0.0%の横ばいであった。

製造工業生産能力指数、2015年=100

生産能力	原指数		
	指数	前月比(%)	前年同月比(%)
	98.7	0.0	-0.1

製造工業稼働率指数、2015年=100

稼働率	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比(%)	指数	前年同月比(%)
	100.6	-0.4	107.2	-4.5

鉱工業指数、2015年=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	102.2 (101.9)	-0.6 (-0.9)	110.9 (110.6)	-4.3 (-4.6)
出荷 (速報値)	100.9 (101.6)	-1.3 (-0.6)	112.0 (112.8)	-4.0 (-3.3)
在庫 (速報値)	103.8 (104.0)	1.4 (1.6)	98.9 (99.1)	0.2 (0.4)
在庫率 (速報値)	107.2 (107.3)	1.6 (1.7)	94.6 (94.7)	3.4 (3.5)

なお、詳細は以下の経済産業省 HP をご参照下さい。

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

<2019年3月の製造工業生産能力指数・稼働率指数の動向>

- (1) 3月の製造工業生産能力指数は、98.7で前月比0.0%の横ばいであった。
業種別にみると、生産用機械工業同0.2%、電気・情報通信機械工業同0.1%が上昇し、汎用・業務用機械工業同-0.6%が低下した。
- (2) 3月の製造工業稼働率指数は、100.6で前月比-0.4%の低下であった。
業種別にみると、輸送機械工業同-2.2%、電気・情報通信機械工業同-3.6%、金属製

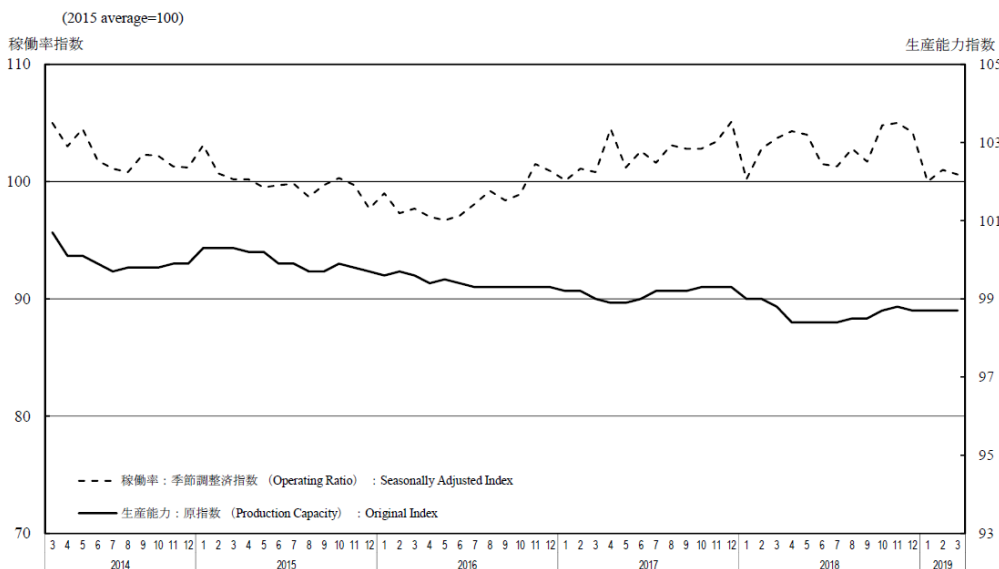
品工業同-5.9%等が低下し、化学工業同 4.1%、鉄鋼・非鉄金属工業同 2.6%、汎用・業務用機械工業同 1.9%等が上昇した。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

index.2015= 100

年 月	生産能力(末) Production Capacity			稼働率 Operating Ratio				Year and Month
	原指数 Original Index		前年 (同月期) 比 %Change From Previous Year	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		
	前月(期) 比 %Change From Previous Month(Quarter)	前月(期) 比 %Change From Previous Month(Quarter)		前月(期) 比 %Change From Previous Year	前年 (同月期) 比 %Change From Previous Year			
2016 年	99.3		-0.4			98.5	-1.5	C.Y. 2016
2017	99.3		0.0			102.3	3.9	C.Y. 2017
2018	98.7		-0.6			103.1	0.8	C.Y. 2018
2016 年度	99.0		-0.6			99.2	-0.1	F.Y. 2016
2017	98.8		-0.2			102.7	3.5	F.Y. 2017
2018	98.7		-0.1			102.5	-0.2	F.Y. 2018
2018 年 I 期	98.8	-0.5	-0.2	102.2	-1.5	103.8	1.4	Q1 2018
II 期	98.4	-0.4	-0.6	103.3	1.1	101.8	0.6	Q2
III 期	98.5	0.1	-0.7	101.9	-1.4	101.0	-1.1	Q3
IV 期	98.7	0.2	-0.6	104.7	2.7	105.7	2.0	Q4
2019 年 I 期	98.7	0.0	-0.1	100.5	-4.0	101.5	-2.2	Q1 2019
2018 年 1 月	99.0	-0.3	-0.2	100.2	-4.7	97.6	1.2	Jan. 2018
2 月	99.0	0.0	-0.2	102.8	2.6	101.6	1.4	Feb.
3 月	98.8	-0.2	-0.2	103.7	0.9	112.2	1.4	Mar.
4 月	98.4	-0.4	-0.5	104.3	0.6	102.1	2.4	Apr.
5 月	98.4	0.0	-0.5	104.0	-0.3	99.8	3.0	May
6 月	98.4	0.0	-0.6	101.5	-2.4	103.5	-3.3	Jun.
7 月	98.4	0.0	-0.8	101.3	-0.2	105.0	0.3	Jul.
8 月	98.5	0.1	-0.7	102.8	1.5	97.1	-0.3	Aug.
9 月	98.5	0.0	-0.7	101.7	-1.1	100.9	-3.3	Sep.
10 月	98.7	0.2	-0.6	104.8	3.0	107.9	3.9	Oct.
11 月	98.8	0.1	-0.5	105.0	0.2	107.2	2.9	Nov.
12 月	98.7	-0.1	-0.6	104.2	-0.8	102.0	-0.7	Dec.
2019 年 1 月	98.7	0.0	-0.3	100.0	-4.0	97.4	-0.2	Jan. 2019
2 月	98.7	0.0	-0.3	101.0	1.0	99.8	-1.8	Feb.
3 月	98.7	0.0	-0.1	100.6	-0.4	107.2	-4.5	Mar.

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)
Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio



詳細は以下の経済産業省 HP をご参照下さい。(指数の動向資料 pdf へ)
https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2015_201903nj.pdf

3. その他の動向

■ 電子部品グローバル出荷統計

(2019年4月26日、一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) 発表より抜粋)
最新版月別出荷金額

- ・2019年2月グローバル出荷額は2,787億円、前年比95.3%となり、前年比マイナスとなった。
- ・品目別出荷は受動部品（前年比107.2% 1,190億円）、接続部品（同84.6% 716億円）、変換部品（同91.3% 520億円）、その他の電子部品（同90.6% 360億円）となった。
- ・地域別出荷は、日本（前年比98.3% 730億円）、米州（同100.8% 316億円）、欧州（同103.4% 355億円）、中国（同92.3% 785億円）、アジア・その他（同89.3% 604億円）となった。

【月別出荷金額】

1. 月別出荷金額 (2019.04.26 発表：毎月更新)

電子部品出荷額 (億円)	2018年度						2018年度累計		
	12月		1月		2月		4月-2月		
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	
世界計	3,050	87	3,260	91	2,787	95	37,006	99	
(日本)	770	83	711	82	730	98	8,628	96	
品目別	受動部品	1,324	102	1,444	107	1,190	107	15,563	113
	コンデンサ	962	107	1,051	111	872	113	11,185	118
	抵抗器	132	101	131	99	117	99	1,498	105
	トランス	37	103	38	101	34	98	423	103
	インダクタ	188	83	219	95	162	86	2,422	97
	その他	2	0	2	0	2	0	33	0
	接続部品	783	84	774	84	716	84	9,320	90
	スイッチ	332	84	357	87	322	87	3,920	87
	コネクタ	446	84	412	81	389	82	5,345	92
	その他	4	88	4	86	3	80	53	93
	変換部品	577	71	608	75	520	91	7,243	92
	音響部品	138	58	149	65	117	82	1,591	79
	センサ	260	88	268	91	242	92	3,149	98
	アクチュエータ	179	65	190	67	160	96	2,502	96
	その他の電子部品	365	81	433	89	360	90	4,878	93
	電源部品	170	84	166	84	149	80	1,972	90
	高周波部品	195	78	266	92	210	99	2,905	95

【地域別出荷金額】

2. 地域別出荷金額
«2018年度»

地域別出荷金額 (億円)	2018年度						2018年度累計	
	12月		1月		2月		4月-2月	
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)
グローバル	3,050	87	3,260	91	2,787	95	37,006	99
日本	770	83	711	82	730	98	8,628	96
米州	316	108	381	112	316	100	3,797	112
欧州	267	99	386	102	355	103	3,722	104
中国	1,013	82	1,017	84	785	92	12,615	97
アジア他	687	90	767	99	604	89	8,286	99

※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
 - ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース（グループ間取引調整後）の出荷額データをとりまとめており、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。
- なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

詳細は以下の JEITA HP をご参照下さい。

http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

■ MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017-2022年：コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMSのエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定しています。2017-2022年のMEMS市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供しています。

内容は、・内蔵システムとMEMS

- ・MEMS市場促進要因
- ・企業分析
- ・MEMS市場予測

となっています。

サマリーは以下の「データリソース社」のHPをご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上